

平成15年度
老人保健健康増進等事業
による研究報告書

平成15年度

三センター共同研究事業

＜痴呆ケアにおけるリスクマネジメントに関する研究事業＞

高齢者痴呆介護研究・研修東京センター
高齢者痴呆介護研究・研修仙台センター
高齢者痴呆介護研究・研修大府センター

はじめに

最近、新聞、テレビ等のマスコミで、医療事故が取り上げられることが多くなって、国民の関心も高い。

3センターの共通研究課題として取り組んで2年が経過し、3年目を迎えて、これまでの成果をまとめて国民に還元する必要がある。現在までに、東京センターは「痴呆性高齢者の転倒事故の要因と事故防止策」を中心に、仙台センターは「グループ・ホームにおけるリスク・マネージメント」についての研究を行い、大府センターは、主管センターとして、各分野の専門家による委員会を設置し、専門家にご講演頂き、その内容を広くインターネットで公開し、また、「痴呆疾患別のリスク評価」、「嚥下性障害の評価・予防」、「IT活用によるリスク評価やシステム構築」等の実践的研究を行った。

これらの結果から、クレームを受け、どう処理するか、リスクの予測と予知をし、いかに防止ないし回避するか、事故発生時の対応と拡大の防止（最小化）、特に、情報公開と誠実な対応、そして、リスク予防策の策定が重要であることが確認された。

今後は、これらの結果を痴呆ケア関連分野に広く周知徹底し、利用者に快適なケアが行われるように推進することが私達の責務であると考えられる。

平成16年3月

高齢者痴呆介護研究・研修大府センター

センター長 柴山 漢人

目 次

研究班構成について	3
平成 15 年度研究成果	
1) 3 センター共同事業	8
ワークショップ「痴呆ケアにおけるリスクマネージメントをめぐって」	
・大府センター担当分	
・東京センター担当分	
・仙台センター担当分	
2) 東京センター報告書	119
「痴呆ケアにおけるリスクマネージメント・痴呆性高齢者の 転倒事故の要因とリスク評価に基づく事故防止策の研究」	
研究統括責任者	
須田佑一（高齢者痴呆介護研究・研修東京センター研究部長）	
3) 仙台センター報告書	146
「痴呆ケアにおけるリスクマネージメント －痴呆ケアにおけるリスクマネージメントシステムの確立と 普及に関する研究－」	
阿部哲也（高齢者痴呆介護研究・研修仙台センター 研修研究員）	
加藤伸司（高齢者痴呆介護研究・研修仙台センター 研究・研修部長）	
4) 大府センター報告書	205
「痴呆ケアにおけるリスクマネージメント －痴呆ケアにおけるリスク評価およびシステム構築に関する研究」	
・ I T ソフトを用いたリスク評価およびシステム構築に関する研究	
主任研究者 宮尾 克（名古屋大学情報連携基盤センター）	
分担研究者 時田 純（潤生園 園長）、永島 隆（潤生園 室長）、 大森正子（名古屋大学）、後藤真澄（中部学院大学）、福 田博美（愛知教育大学）、渡辺智之・水野 裕（高齢者 痴呆介護研究・研修大府センター）	

- ・痴呆疾患別のリスク評価に関する研究
 ～痴呆性高齢者が日常生活の中で発生する危険を回避して
 安全で快適な生活を送れるようにするための研究～
 主任研究者 伊苅弘之（医療法人さわらび会福祉村病院 副院長）

- ・痴呆ケアにおけるリスクマネジメント
 （痴呆性高齢者における嚙下評価指針作成に関する研究）
 主任研究者 長屋政博（国立長寿医療センター 骨・関節機能訓練科医長）
 研究協力者 水野 裕（高齢者痴呆介護研究・研修センター）
 竹中 晋（川崎医科大学 リハビリテーション科）

- ・「痴呆ケアにおけるリスクマネジメント」に関する実践対応集
 主任研究者 水野 裕（高齢者痴呆介護研究・研修大府センター）
 研究協力者 杉浦博子（特別養護老人ホームむらさき野苑TQM推進室室長）
 宮池英夫（老人保健施設相生施設長）
 浅田好恵（特別養護老人ホーム高浜安立荘）
 横尾英子（神戸女子大学）
 横尾能範（有限会社シニアケア）

5) 資料

研究班構成について

平成 15 年度 3 センター共通テーマ「痴呆ケアにおけるリスクマネジメント」に関する研究は、以下に図示した研究班構成で行われた。すなわち、外部委員（有識者）、厚生労働省（オブザーバー）、3 センター代表で構成される本研究班が、研究全般を総括し、その下にそれぞれのセンターの研究を遂行するための研究会を設置した。なお、研究全体の取りまとめは、大府センターが行った。班構成、研究会構成は以下の通りである。

